

第92回マチコミリサーチ 『お金と時間にゆとりを！これからの理想的な働き方について』

ドリームエリア株式会社は、無料の緊急連絡網ツール『マチコミメール』を利用している保護者の方々を対象に、『お金と時間にゆとりを！これからの理想的な働き方について』のアンケートを実施いたしました。

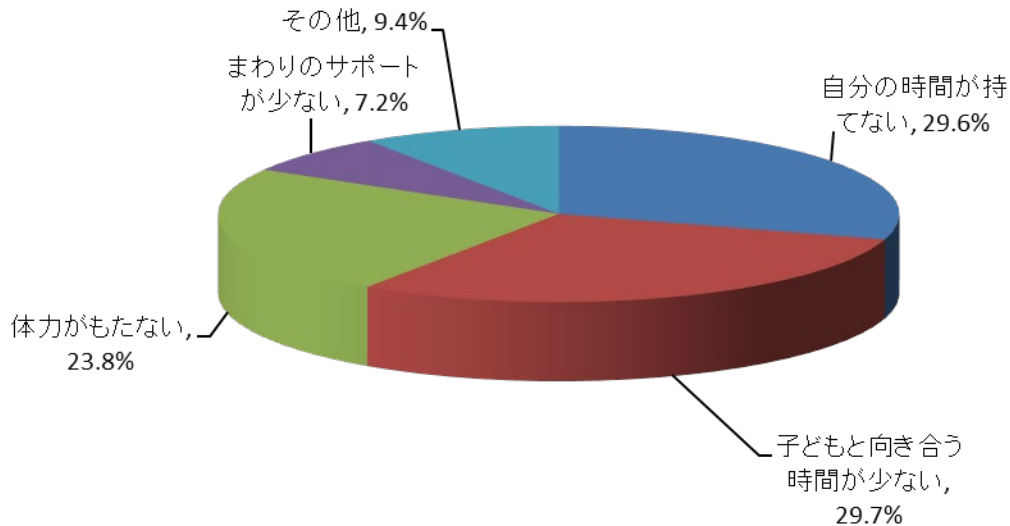
<調査概要>

調査期間	2022年5月12日(木)～5月17日(火)
調査方法	携帯サイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	全国の幼稚園・保育園・小学校・学童・中学校・高校のマチコミメール会員
調査対象数	2,164,647名
有効回答数	23,224件

<質問項目>

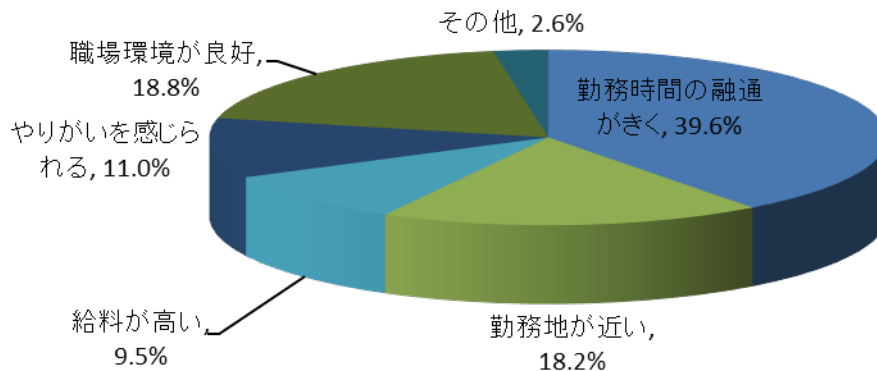
1	仕事をしながらの家事・育児で困りごとはありますか？
2	仕事を選ぶうえで一番重視する点はどこですか？
3	少しでも自由な時間を確保できたら何をしたいですか？
4	好きに使えるお金があったら、何がしたいですか？
5	時間に余裕ができて、給与もアップできるお仕事に興味はありますか？

質問1: 仕事をしながらの家事・育児で困りごとはありませんか？



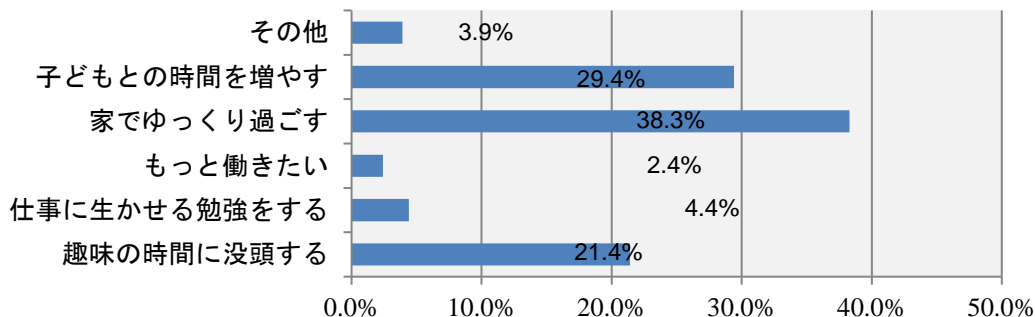
「子どもと向き合う時間が少ない」「自分の時間が持てない」「体力がもたない」との回答が多数を占める結果になりました。仕事をしながらの家事・育児は想像以上に負担が大きいものです。忙しい日々の中で少しでも余裕を持てるように、家事育児の分担を見直したり、まわりの協力を得たり色々工夫をしていきたいですね。

質問2: 仕事を選ぶうえで一番重視する点はどこですか？



4割近くの方が「勤務時間の融通がきく」点を重視されていることが分かりました。お子さまの発熱や体調不良により急遽仕事を休まなければならない場合もあります。給料や仕事のやりがいよりも、何かあった時でも柔軟に対応できる環境が仕事を選ぶうえで重視される傾向にあるようです。

質問3: 少しでも自由な時間を確保できたら何をしたいですか？



「家でゆっくり過ごす」と回答された方が最も多く約38%の結果に。時間に追われるストレスフルな生活の中で、まずはゆっくりしたいと考えられている方が多いことが分かりました。一方で「子どもとの時間を増やす」と回答された方も多く、お子さまとの関わりを増やしたいとお考えの方の割合も高いことが伺えます。

質問4: 好きに使えるお金があったら、何がしたいですか？

多かったのは以下のような回答でした。

回答数 : 23,224件

- ・家族で旅行へ行ったり、子どもを遊びに連れていきたい
- ・欲しいものを我慢しないで買う
- ・子どもの習い事や教育資金に充てる

その他にもさまざまなコメントが挙がりましたので、いくつかご紹介します。

自分にご褒美か、投資やこれからのために資格を取ったりしたい

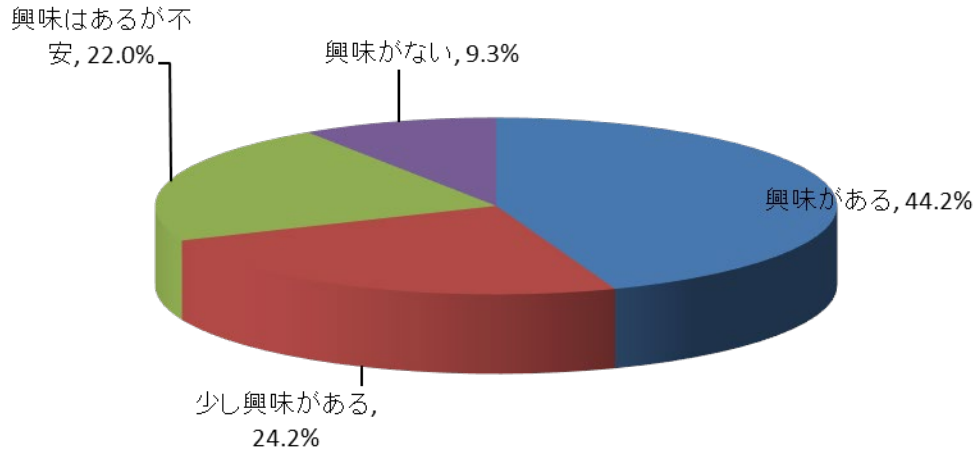
仕事を辞めて（自由な時間を買うイメージで）、大学院や語学学校に通ったり、大人の修学旅行に行く。

息子に毎日がんばってるからご褒美買ってあげたい。息子と思い出作りでどこか出掛けたい。息子の通帳に貯金したい

子どもの教育費、学費気にせず好きなことに挑戦させてあげたい

母子家庭なので、子供達に我慢させてきた分、子供達の好きな事に使わせてあげたいです。

人のために役立てたい。具体的には趣旨に共感できる団体への寄付行為

質問5: 時間に余裕ができて、給与もアップできるお仕事に興味はありますか？

興味を持たれている方を合わせると全体の9割という結果に。在宅ワークの普及をはじめ、働き方の選択肢が増えた昨今。ワークライフバランスを実現するための取り組みも広がってきました。仕事、家事、育児に追われ時間を確保することが難しい場合は、これを機に今の働き方を見直してみてもはいかがでしょうか？

まとめ

アンケートの結果から、仕事をしながら家事・育児をされている方の多くが「自分の時間を持ってない」「子どもと向き合う時間が少ない」とのお困りごとを抱えており、日々の生活の中で時間を作ることがいかに大変であるかが浮き彫りとなりました。

日々の生活に追われていると、次から次へとやることが出てきて気の休まる時がないですよね。ご家族・パートナーのサポートや職場の理解が得られている場合でも自分の時間を確保することは決して容易なことではありません。

在宅ワークの普及をはじめ、フレックスタイム制の導入や副業の自由化など働き方が多様化した昨今。自分の時間やお子さまと向き合う時間を作るためにも、現在の仕事や働き方がご自身にとって負担となっていないか、見直してみてもいいのではないでしょうか。

一度きりの人生だからこそ、新しいことに挑戦したり趣味に時間を費やしたりと有意義な時間を過ごしていきたいところです。

今回のアンケートが、皆さまの理想的な働き方について考えるきっかけとなりましたら幸いです。